

(様式第9)

大市大病 245 号  
平成 20 年 9 月 30 日

厚生労働大臣

殿

公立大学法人大阪市立大学  
理事長 金児 曜嗣

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)

2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)

3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数 63.7 人

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること

4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

→ 別紙参照 (様式第12)

5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績

→ 別紙参照 (様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	413		413	看護業務補助者	44	診療エックス線	
歯科医師				理学療法士	7	蘇臨床検査技師	56
薬剤師	37	12.5	49.5	作業療法士	3	衛生検査技師	
保健師				視能訓練士	2	総その他	
助産師	26	0	26	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	
看護師	736	61.5	797.5	臨床工学技師	6	医療社会事業従事者	
准看護師	3	5.7	8.7	栄養士	0	その他の技術員	3
歯科衛生士				歯科技工士		事務職員	46
管理栄養士	10		10	診療放射線技師	47	その他の職員	61

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位で切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	714.1人	—	714.1人
1日当たり平均外来患者数	2,025.3人	—	2,025.3人
1日当たり平均調剤数		1,273.0剤	

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	0人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	0人
胎児心超音波検査	有・無	0人
インプラント義歯	有・無	0人
顎顔面補綴	有・無	0人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	0人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	0人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	0人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	0人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	0人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	0人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	0人
筋強直症又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	0人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	0人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	0人
腹腔鏡下肝部分切除術	(有)・無	3人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	0人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	0人
成長障害のDNA診断	有・無	0人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	(有)・無	1人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	0人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法	(有)・無	1人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	0人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	0人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	0人
重粒子線治療	有・無	0人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	0人
31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	0人
神経芽腫のRNA診断	有・無	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	0人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	0人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	0人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	0人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	0人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	0人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	0人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	0人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	0人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	0人
超音波骨折治療法	有・無	1人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	0人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	0人
膀胱水圧拡張術	有・無	0人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	0人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	0人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	0人
セメント固定人工股関節再置換におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	0人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	0人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	0人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	0人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	0人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	0人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	1人
腹腔鏡下子宫体がん根治手術	有・無	0人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	(有)・無	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	(有)・無	57人
カフェイン併用化学療法	(有)・無	33人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	(有)・無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	(有)・無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	0人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	(有)・無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	0人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチエット病	79人	・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	14人
・多発性硬化症	40人	・ウェグナー肉芽腫症	6人
・重症筋無力症	51人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	33人
・全身性エリテマトーデス	257人	・多系統萎縮症	19人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	54人	・膿泡性乾癬	12人
・サルコイドーシス	60人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・原発性胆汁性肝硬変	89人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	143人	・重症急性胰炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	80人	・特発性大腿骨頭壊死症	70人
・結節性動脈周囲炎	28人	・混合性結合組織病	33人
・潰瘍性大腸炎	459人	・原発性免疫不全症候群	2人
・大動脈炎症候群	17人	・特発性間質性肺炎	7人
・ビュルガー病	20人	・網膜色素変性症	20人
・天疱瘡	17人	・プリオノ病	0人
・脊髄小脳変性症	53人	・原発性肺高血圧症	1人
・クローン病	271人	・神経線維腫症	28人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・ペーキンソン病関連疾患	117人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	3人
・アミロイドーシス	2人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	22人
・後縦靭帯骨化症	64人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	1人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に2回程度	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 34例	剖検率 15.3 %

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心不全に対しβ遮断薬療法を安全かつ有効に導入するための統合的ゲノム薬理学研究	葭山 稔	循環器内科	5,000,000	(補)文部科学省 委 創薬基盤推進研究事業
骨格筋サイドポピュレーション細胞を用いた重症心不全への細胞移植療法	葭山 稔	循環器内科	1,690,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
副甲状腺ホルモン分子のアミノ基末端側における断片化機構の研究	今西 康雄	骨・リウマチ内科	1,950,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
糖尿病、血小板活性化と動脈硬化の相互病態関連における可溶型糖化蛋白受容体の意義	小山 英則	生活習慣病・糖尿病センター	650,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
新規インスリン抵抗性マーカーの探索とその臨床応用	絵本正憲	生活習慣病・糖尿病センター	1,500,000	(補)財団法人大阪難病研究 委 財団
副甲状腺細胞内における副甲状腺ホルモン断片化調節機構の研究	稻葉 雅章	骨・リウマチ内科	1,100,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
関節リウマチ・骨粗鬆症の重症化防止治療開発研究	西沢 良記	生活習慣病・糖尿病センター	10,000,000	(補)厚生労働省 委 科研費補助金
非小細胞肺癌患者における血中遊離DNAを用いた治療効果予測の検討	木村 達郎	循環器内科	1,900,000	(補)文部科学省 委 若手研究(B)
炎症性腸炎疾患における腸管上皮細胞間接着蛋白の研究	押谷 伸英	消化器内科	1,300,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
アラキドン酸代謝からみたバレット食道・腺癌発生過程の分子機構の解明	藤原 靖弘	消化器内科	1,000,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
消化管苦味受容体からの求心性シグナルの脳内分子イメージングと消化管生理機能解析	富永 和作	消化器内科	1,560,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
プロstagランジンの輸送・代謝機構からの胃癌の病態生理の解明	渡邊 俊雄	消化器内科	2,730,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
上皮一間充織形質転換の観点から見た消化器疾患におけるプロstagランジンの意義	谷川 徹也	消化器内科	1,800,000	(補)文部科学省 委 若手研究(B)
変性赤血球による非アルコール性脂肪性肝炎病態の修飾	河田 則文	肝胆膵内科	1,100,000	(補)文部科学省 委 萌芽研究
消化管癒着・線維形成過程の分子機構解析・制御法開発と腸管星細胞探索の試み	河田 則文	肝胆膵内科	800,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)
グルタメイト脱水素酵素異常による高アンモニア血症の発症機構の解明と治療法の開発	岡野 善行	小児科・新生児科	2,470,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
神経疾患治療に向けての骨髄幹細胞の脳組織内での細胞融合と分化・生着に関する研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	1,690,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
一塩基多型を用いた自閉性障害の分子遺伝学的解析	藤岡 弘季	小児科・新生児科	1,000,000	(補)委	文部科学省 若手研究(B)
小児医療現場における集団変容の要因とプロセスに関する質的研究	山口 悅子	小児科・新生児科	700,000	(補)委	文部科学省 萌芽研究
ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	1,400,000	(補)委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療予防のための実証的研究とガイドライン作成	山野 恒一	小児科・新生児科	1,200,558	(補)委	厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費
造血幹細胞移植を受けたライソゾーム病患者に対する酵素補充療法の適応と投与方法の確立に関する臨床研究計画の作成	田中 あけみ	小児科・新生児科	3,300,000	(補)委	厚生労働省 科研費補助金
先天性代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築	田中 あけみ	小児科・新生児科	400,000	(補)委	厚生労働省 科研費補助金
新しい新生児スクリーニング体制に関する研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	200,000	(補)委	厚生労働省 科研費補助金
現行マススクリーニングの問題解決に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	200,000	(補)委	厚生労働省 科研費補助金
乳幼児のぜん息ハイスク群を対象とした保健指導の実践および評価手法に関する調査研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	10,000,000	(補)委	独立行政法人・環境再生保全機構
タンデムマスによるマススクリーニングの効果に関する研究	岡野 善行	小児科・新生児科	100,000	(補)委	厚生労働省 科研費補助金
アジアにおけるシトリン欠損症の診断と治療	岡野 善行	小児科・新生児科	500,000	(補)委	日本学術振興会・アジア・アフリカ学術基盤形成事業
摂食障害の治療ネットワークの構築について	切池信夫	神経精神科	800,000	(補)委	平成19年度厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費
職場ストレス、抑うつ度の把握と性格傾向に基づいたストレス対処法の開発	井上 幸紀	神経精神科	4,290,000	(補)委	文部科学省 基盤研究(B)
衝動性と脂質代謝、免疫能。摂食障害と若年うつ病、社会不安障害患者の比較	永田 利彦	神経精神科	1,300,000	(補)委	文部科学省 基盤研究(C)
強迫性障害発症要因研究、PANDASとの関連性検討	松永 寿人	神経精神科	1,170,000	(補)委	文部科学省 基盤研究(C)
学童期の高機能広汎性発達障害児における多動性と不注意	宮脇 大	神経精神科	1,400,000	(補)委	文部科学省 若手研究(B)
摂食障害モデルラットを用いてレブチンによる過食症状抑制の可能性を検討	井上 幸紀	神経精神科	500,000	(補)委	文部科学省 萌芽研究
日本人アトピー性皮膚炎におけるフィラグリン遺伝子異常の解析	深井 和吉	皮膚科	2,860,000	(補)委	文部科学省 基盤研究(C)
皮膚バリア機能に対する漢方薬の作用機序解明と評価システムの構築	小林 裕美	皮膚科	3,640,000	(補)委	文部科学省 基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
定位放射線照射実験モデルによる脳障害の画像および病理組織による検討	細野 雅子	放射線科	910,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)	
左門脈圧亢進症動物モデル作成とその治療PSE	徳永 正弘	放射線科	500,000	(補)文部科学省 委 若手研究(B)	
実験腫瘍に対するラジオ波凝固療法後の画像診断による早期治療効果判定の検討	大隈 智尚	放射線科	1,900,000	(補)文部科学省 委 若手研究(B)	
スキルス胃癌の病態と分子標的治療	平川 弘聖	消化器外科	1,950,000	(補)文部科学省 委 若手研究(B)	
VEGF受容体およびPDGF受容体をターゲットとした大腸癌の分子標的治療	山田 靖哉	消化器外科	1,950,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)	
KGFR阻害剤およびTGF $\beta$ R阻害剤を用いた胃癌転移の分子標的治療開発	八代正和	消化器外科	1,950,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)	
肺癌に対する新しい分子標的治療	仲田 文造	消化器外科	1,560,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)	
スキルス胃癌の腹膜播種性転移およびリンパ節転移に対する分子標的治療の開発	八代正和	消化器外科	1,000,000	(補)有限責任中間法人小林がん学術振興会 委	
スキルス胃癌の病態解明と分子標的治療の開発	八代正和	消化器外科	1,000,000	(補)財団法人 佐川がん研究助成振興財団 委	
スキルス胃癌の病態解明と分子標的治療の開発	八代正和	消化器外科	1,668,000	(補)大阪市立大学特定研究 委 奨励費	
ワイドスクリーニング用マイクロアレイCGH解析システム構築と肝癌責任遺伝子探索	久保 正二	肝胆脾外科	780,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)	
進行肝細胞癌に対する集学的治療確立に関する研究	久保 正二	肝胆脾外科	1,000,000	(補)がん臨床研究事業 委	
骨粗鬆症性椎体骨折の治療成績不良をもたらす因子の解明と効果的かつ効率的な治療法の確立-多施設共同前向き研究-	中村 博亮	整形外科	5,760,000	(補)厚生労働省 委 科研費補助金	
骨粗鬆症性椎体骨折の治療成績不良をもたらす因子の解明と効果的かつ効率的な治療法の確立-多施設共同前向き研究-(臨床研究実施チーム)	中村 博亮	整形外科	7,982,000	(補)厚生労働省 委 科研費補助金	
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	高岡 邦夫	整形外科	1,200,000	(補)厚生労働省 委 科研費補助金	
骨再生ドラッグデリバリーシステムを用いたテーラーメード骨格再建システムの開発	高岡 邦夫	整形外科	35,000,000	(補)武田科学振興財団 委 (3年で35,000,000円)	
合成骨形成蛋白の骨形成能を臨床実用化するための統合的技術の開発	高岡 邦夫	整形外科	17,420,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(S)	
骨形成蛋白、生体活性セラミックおよびコンピュータ支援技術を用いた解剖学的骨格再建	中村 博亮	整形外科	1,300,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)	
骨形成制御の細胞内シグナル伝達系におけるクロストークの解明と骨再生への応用	小池 達也	整形外科	5,720,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)	

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
組織再生促進サイトカイン含有ナノファイバーを用いた新しい腱縫合糸の開発	香月 憲一	整形外科	1,430,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
関節潤滑を改善し、軟骨再生を促進する関節内投与型ドラッグデリバリーシステム	北野 利夫	整形外科	1,560,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
BMPの初期応答遺伝子群の同定および機能解析	辻尾 唯雄	整形外科	900,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)
bFGF-DDSを用いた末梢神経欠損部の人工神経による架橋実験	高松 聖仁	整形外科	910,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
前駆細胞からの軟骨分化誘導実験系での網羅的遺伝子発現解析と、その組織修復への応用	脇谷 滋之	整形外科	2,340,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)
BMPを用いた組織学的半月板再建術の開発	星 学	整形外科	1,700,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)
骨再生能を制御する分子メカニズムに関する研究	松村 昭	整形外科	1,900,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)
成長軟骨疾患の病因解明を目指した基本的アプローチ	今井 祐記	整形外科	1,500,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)
骨と韌帯結合部(エンテシス)の再生技術確立と臨床応用	鈴木 亨暢	整形外科	1,300,000	(補)文部科学省科学研究費 委 助金若手研究(スタートアップ)
再生・細胞医療の世界標準品質を確立する治療法および培養システムの研究開発	脇谷 滋之	整形外科	22,885,000	(補)独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合 委 開発機構
BMPと吸収性生体材料による骨再生	高岡 邦夫	整形外科	5,000,000	(補)財団法人 上原記念生命科学財団 委
卵巣癌腹膜播種機構の解明	吉田 裕之	女性診療科	1,100,000	(補)文部科学省 委 若手研究(B)
帶状疱疹後神経痛に伴う脳内モノアミン動態の解明—難知性疼痛の治療に向けて	舟尾 友晴	麻酔科	1,300,000	(補)文部科学省 委 若手研究(B)
麻酔薬の作用発現調節機構—脳内薬物動態と麻酔効果の関連の解明	小田 裕	麻酔科	780,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
ニューロパシックペインにおける交感神経遮断の分子生物学的意義	西川 精宣	麻酔科	910,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
難知性疼痛治療の新しいアプローチ、ミクログリアP2×4受容体機能と発現の検討	森 隆	麻酔科	780,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(C)
電気痙攣療法による疼痛緩和メカニズムの解明—神経因性疼痛治療への応用に向けて	長谷 一郎	麻酔科	1,000,000	(補)文部科学省 委 基盤研究(B)
ATL発症高危険群の長期追跡と発病予防の検討	高 起良	血液内科	1,000,000	(補)文部科学省 委 特定領域研究

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
造血幹細胞移植治療の合併症の評価と克服に関する研究	日野雅之	血液内科	1,690,000	○補文部科学省 委基盤研究(C)
治療関連合併症を減少させて同種造血幹細胞移植後の生存率の向上を目指す標準的治療法の開発研究	日野雅之	血液内科	1,000,000	○補厚生科研 がん臨床研究事業
造血器悪性腫瘍に対する造血幹細胞移植後の肺障害の評価	中根孝彦	血液内科	300,000	○補大阪対がん協会
特発性門脈圧亢進症の病態解析	川村 悅史	核医学科	1,300,000	○補文部科学省 委若手研究(B)
F-18フッ化ナトリウムによる甲状腺癌骨転移検索治療効果判定に関する研究	河邊 譲治	核医学科	1,300,000	○補文部科学省 委若手研究(C)
門脈血行異常症に関する調査研究	塩見 進	核医学科	700,000	○補厚生労働省難知性疾患 克服研究事業
早期認知症患者におけるアミロイドペプチド検査の臨床的有用性の検討	三木 隆己	老年科・神経内科	5,070,000	○補文部科学省 委基盤研究(B)
高齢糖尿病患者における認知機能障害に関する研究	嶋田 裕之	老年科・神経内科	650,000	○補文部科学省 委基盤研究(C)
骨形成制御の細胞内シグナル伝達系におけるクロストークの解明と骨再生への応用	小池達也	リハビリテーション部	5,720,000	○補文部科学省 委基盤研究(B)
アガベイスリンのカルシウム吸収促進効果に関する研究	小池達也	リハビリテーション部	6000000	○補株式会社アガベ
肝臓病診断用チップ開発に関する研究	田守 昭博	輸血部	2,000,000	○補科学技術振興機構

合計84

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Cardiol. 15;100(12):1713-7. (2007年12月)	Comparison of clinical characteristics and arterial remodeling by intravascular ultrasonic imaging in three age groups (< or =55, 56 to 69 and > or =70 years) of Japanese patients with acute myocardial infarction.	葭山 稔	循環器内科
Circ J.;71(10):1593-8. (2007年10月)	The simultaneous assessment of aortic valve area and coronary artery stenosis using 16-slice multidetector-row computed tomography in patients with aortic stenosis comparison with echocardiography.	葭山 稔	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr. (2007年7月)	Functional Mitral Regurgitation Predicts Prognosis Independent of Left Ventricular Systolic and Diastolic Indices in Patients with Ischemic Heart Disease.	葭山 稔	循環器内科
Echocardiography. ;24(7):677-84. (2007年8月)	Hypertrophic cardiomyopathy is associated with more severe left ventricular dyssynchrony than is hypertensive left ventricular hypertrophy.	葭山 稔	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr.;20(10):1203-10. (2007年10月)	Comparative study of high-resolution microimaging with 30-MHz scanner for evaluating cardiac function in mice.	葭山 稔	循環器内科
Circ J.;71(7):1060-6. (2007年7月)	Effects of gender on prognosis of patients with known or suspected coronary artery disease undergoing contrast-enhanced dobutamine stress echocardiography.	葭山 稔	循環器内科
Heart.;93(12):1537-41. (2007年12月)	Neopterin is associated with plaque inflammation and destabilisation in human coronary atherosclerotic lesions.	葭山 稔	循環器内科
Am Heart J. ;153(6):1080.e1-6. (2007年6月)	Relation of early improvement in coronary flow reserve to late recovery of left ventricular function after beta-blocker therapy in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.	葭山 稔	循環器内科
Arthritis Rheum. ;56(6):1904-9. (2007年6月)	Altered coronary vasomotor function in young patients with systemic lupus erythematosus.	葭山 稔	循環器内科
Clin Cardiol.;30(5):229-33. (2007年5月)	QT dispersion and prognosis after coronary stent placement in acute myocardial infarction.	葭山 稔	循環器内科
Circ J.;71(5):681-7. (2007年5月)	Elevated plasma levels of oxidized low-density lipoprotein relate to the presence of angiographically detected complex and thrombotic coronary artery lesion morphology in patients with unstable angina.	葭山 稔	循環器内科
Circ J.;71(5):648-53. (2007年5月)	Atherosclerotic plaque with ultrasonic attenuation affects coronary reflow and infarct size in patients with acute coronary syndrome: an intravascular ultrasound study.	葭山 稔	循環器内科
J Pharmacol Sci.;103(4):391-7. (2007年4月)	The long-acting Ca2+-channel blocker azelnidipine prevents left ventricular remodeling after myocardial infarction.	葭山 稔	循環器内科
Heart.;93(10):1219-25. (2007年10月)	Impact of arterial remodelling and plaque rupture on target and non-target lesion revascularisation after stent implantation in patients with acute coronary syndrome: an intravascular ultrasound study.	葭山 稔	循環器内科
Circ J.;71(4):530-5. (2007年4月)	Quantification of coronary calcification by intravascular ultrasound.	葭山 稔	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Stem Cells.;25(3):612-20. Epub 2006 Nov 9. (2007年5月)	Xenotransplantation of long-term-cultured swine bone marrow-derived mesenchymal stem cells.	葭山 稔	循環器内科
Osaka City med J. 2007 Dec;53(2):87-95. (2007年12月)	Enhanced expression of angiotensin II type 1 receptor in usual interstitial pneumonia.	平田 一人	呼吸器内科
J Asthma. 2007 Dec;44(10):861-6. (2007年12月)	Nepsilon-(Carboxymethyl)lysin, a major advanced glycation end product in exhaled breath condensate as a biomarker of small airway involvement in asthma.	平田 一人	呼吸器内科
Osaka City med J. 2007 Jun;53(1):25-34. (2007年6月)	Effect of tiotropium or combination therapy with salmeterol on hyperinflation in COPD.	平田 一人	呼吸器内科
Respirology. 2007 Jul;12(4):516-22. (2007年7月)	Induced sputum analysis in asymptomatic young adults with bronchial hyperresponsiveness to methacholine.	平田 一人	呼吸器内科
Int J Mol Med. 2007 Apr;19(4):565-70. (2007年4月)	Enhanced mast cell chymase expression in human idiopathic interstitial pneumonia.	平田 一人	呼吸器内科
J Allergy Clin Immunol. 2008 Feb;121(2):390-5. (2008年2月)	Angiopoietin-2 as a contributing factor of exercise-induced bronchoconstriction in asthmatic patients receiving inhaled corticosteroid therapy.	金澤 博	呼吸器内科
Chest. 2007 Oct;132(4):1169-74. (2007年10月)	Up-regulation of thrombin activity induced by vascular endothelial growth factor in asthmatic airways.	金澤 博	呼吸器内科
Respirology. 2007 Sep;12(5):670-4. (2007年9月)	Changes in circulating thrombomodulin levels with exercise in patients with chronic obstructive pulmonary disease.	金澤 博	呼吸器内科
Chest. 2007 Apr;131(4):1035-41. (2007年4月)	Roles of angiopoietin-1 and angiopoietin-2 on airway microvascular permeability in asthmatic patients.	金澤 博	呼吸器内科
J Pharmacol Sci. 2008 Jan;106(1):56-67 (2008年1月)	Microarray analysis of glomerular gene expression in murine lupus nephritis.	根来 伸夫	膠原病内科
Cancer Sci. 98(5):757-63 (2007年5月)	Loss of smooth muscle calponin results in impaired blood vessel maturation in the tumor-host microenvironment.	小山 英則	生活習慣病・糖尿病センター
Mol Med.13(11-12):625-35 (2007年11月)	RAGE and soluble RAGE: potential therapeutic targets for cardiovascular diseases.	小山 英則	生活習慣病・糖尿病センター
J Ren Nutr. 2008 18(1):76-82. (2008年1月)	Endogenous secretory receptor for advanced glycation end-products and cardiovascular disease in end-stage renal disease.	西沢 良記	生活習慣病・糖尿病センター
Current Opinion in Nephrology and Hypertension 16(6):572-576 (2007年11月)	Body fat measurement in chronic kidney disease: implications in research and clinical practice.	庄司 哲雄	生活習慣病・糖尿病センター
Diabetes Obes Metab 10:400-407, 2008 (2008年10月)	Non-oxidative glucose disposal is reduced in type 2 diabetes, but can be restored by aerobic exercise.	絵本 正憲	生活習慣病・糖尿病センター
J Atheroscler Thromb 14:172-178, 2007 (2007年4月)	Clinical impact of metabolic syndrome by modified NCEP-ATPIII criteria on carotid atherosclerosis in Japanese adults.	絵本 正憲	生活習慣病・糖尿病センター
Clin Endocrinol (Oxf) (2008年1月)	Significant correlation of glycated albumin, but not glycated haemoglobin, with arterial stiffening in haemodialysis patients with type2 diabetes.	稻葉 雅章	生活習慣病・糖尿病センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Endocrinol (Oxf) (2008年1月)	Utility of serum tartrate-resistant acid phosphatase (TRACP5b) as a bone resorption marker in patients with chronic kidney disease : independence from renal dysfunction.	稻葉 雅章	生活習慣病・糖尿病センター
Clin Exp Rheumatol: 26(1):52-60, (2008年1月)	Increased Basal Phosphorylation of Mitogen-Activated Protein Kinases and Reduced Responsiveness to Inflammatory Cytokines in Neutrophils from Patients with Rheumatoid Arthritis.	稻葉 雅章	生活習慣病・糖尿病センター
Magnes Res 20:237-44, (2007年12月)	Serum magnesium concentration is a significant predictor of mortality in maintenance hemodialysis patients.	石村 栄治	腎臓内科
Clin Nephrol 68:222-7, (2007年10月)	Significant association between the presence of peripheral vascular calcification and lower serum magnesium in hemodialysis patients.	石村 栄治	腎臓内科
Inflammopharmacology. ;15(2):84-9. (2007年4月)	Comparison of gastrointestinal symptoms and psychological factors of functional dyspepsia to peptic ulcer or panic disorder patients.	富永 和作	消化器内科
Gut 2007;56: 599-600 (2007年4月)	Long-term prospective pilot study with tranilast for the prevention of stricture progress in patients with Crohn's disease.	押谷 伸英	消化器内科
J Gastroenterology ;42(4):325-6. (2007年4月)	Four-year follow-up of the first case of gastroesophageal reflux disease treated with endoluminal gastroplication in Japan.	樋口 和秀	消化器内科
J Gastroenterol. ;42(8):690-3. (2008年8月)	Rebamipide, a gastro-protective and anti-inflammatory drug, promotes gastric ulcer healing following eradication therapy for Helicobacter pylori in a Japanese population: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	荒川 哲男	消化器内科
2007 Apr;15(2):78-83. (2007年4月)	A diagnosis support system for capsule endoscopy. Inflammopharmacology.	斯波 将次	消化器内科
Int J Moe Med 2007;20: 161-167 (2007年8月)	Differential expression of vasoactive intestinal peptide receptor 1 expression in inflammatory bowel disease.	押谷 伸英	消化器内科
Dig Dis Sci. 52(10):2833-9. (2007年10月)	Anti-inflammatory effects of pravastatin on Helicobacter pylori-induced gastritis in mice.	渡辺 俊雄	消化器内科
2007;12(4):328-32. (2007年8月)	Atrophic gastritis, Helicobacter pylori, and colorectal cancer risk: a case-control study. Helicobacter.	町田 浩久	消化器内科
2007;17:781-6. (2007年4月)	Growth inhibition of colon cancer cells by transfection of dominant-negative apoptosis signal-regulating kinase-1. Oncol Rep.	富永 和作	消化器内科
2007 Apr;170(4):1219-28. (2007年4月)	Novel roles of local insulin-like growth factor-1 activation in gastric ulcer healing: promotes actin polymerization, cell proliferation, re-epithelialization, and induces cyclooxygenase-2 in a phosphatidylinositol 3-kinase-dependent manner. Am J Pathol.	谷川 徹也	消化器内科
Gastroenterology ;133(6):1938-47. (2007年12月)	Aging Gastropathy - Novel Mechanisms: Hypoxia, Upregulation Of Multifunctional Phosphatase Pten And Proapoptotic Factors.	谷川 徹也	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol ;42(10):816-22. (2007年10月)	Synergistic antitumor effect of combined 5-FU with 5-chrolo-2, 4-dihydroxypyridine (CDHP) on the 5-FU-resistant gastric cancer cells: a possible role in a dihydropyrimidine dehydrogenase (DPD)-independent mechanism.	富永 和作	消化器内科
2008 Jan;15(1):51-9. (2008年1月)	Interleukin-10 gene transfer to peritoneal mesothelial cells suppresses peritoneal dissemination of gastric cancer cells due to a persistently high concentration in the peritoneal cavity. Cancer Gene Ther.	富永 和作	消化器内科
Inflamm Bowel Dis;14(2):259-64 (2008年2月)	Endoscopic and chromoendoscopic atlas featuring dysplastic lesions in surveillance colonoscopy for patients with long-standing ulcerative colitis.	渡邊 俊雄	消化器内科
Immunology ;123(2):171-80. (2008年2月)	Toll-like receptor agonists stimulated human neutrophil migration via activation of mitogen-activated protein kinases.	青松 和輝	消化器内科
2007;10(Pt 1):775-83. (2007年10月)	Contraction detection in small bowel from an image sequence of wireless capsule endoscopy.Med Image Comput Comput Assist Interv Int Conf Med Image Comput Comput Assist Interv.	荒川 哲男	消化器内科
Scand J Gastroenterol 1-6 (2007年10月)	Usefulness of MRI for detection of asymptomatic osteonecrosis of the femoral head in patients with inflammatory bowel disease on long-term corticosteroid treatment.	鎌田 紀子	消化器内科
2008 Jan 21;14(3):448-53. (2008年1月)	Management of gastric fundal varices without gastro-renal shunt in 15 patients.World J Gastroenterol.	亀田 夏彦	消化器内科
Gut ;57(2):181-7. (2008年2月)	Non-steroidal anti-inflammatory drug-induced small intestinal damage is Toll-like receptor 4 dependent.	渡邊 俊雄	消化器内科
2008 Feb;14(2):259-64. (2008年2月)	Endoscopic and chromoendoscopic atlas featuring dysplastic lesions in surveillance colonoscopy for patients with long-standing ulcerative colitis. Inflamm Bowel Dis.	押谷 伸英	消化器内科
J Clin Biochem Nutr (2007年5月)	Genetic and epigenetic markers to identify high risk patients for multiple early gastric cancers after treatment with endoscopic mucosal resection.	荒川 哲男	消化器内科
Gut;57(5):575-81 (2008年1月)	A Novel Rat Model to Determine Interaction between Reflux Esophagitis and Bronchial Asthma. Gut.	荒川 哲男	消化器内科
Life Sciences ;82(15-16):862-8 (2008年2月)	Effect of chronic stress on gastric emptying and plasma ghrelin levels in rats.	荒川 哲男	消化器内科
2007 Dec;22(12):2348-51. (2007年12月)	Plummer-Vinson syndrome successfully treated by endoscopic dilatation.J Gastroenterol Hepatol.	榎本 大	消化器内科
心療内科2007;11:60-64 (2007年11月)	消化器機能性疾患である機能性ディスペプシアの病態生理と心理的背景	富永 和作	消化器内科
消化器と免疫 2007;43:94-96 (2007年5月)	潰瘍性大腸炎患者の顆粒球吸着除去療法における血清IP-10値の変動	渡辺 憲治	消化器内科
早期大腸癌 11:223-227 (2007年5月)	III小腸疾患診断・治療の今後のアルゴリズム(2)炎症性疾患を中心に b.炎症性腸疾患における小腸内視鏡の役割と問題点	渡辺 憲治	消化器内科
クリニカルプラクティス 26(5):367-372 (2007年5月)	【特集:プライマリケアで消化管機能異常症を診る】胃食道逆流症	荒川 哲男	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医学のあゆみ. 222:531-36 (2007年8月)	機能性ディスペシアの臨床. 機能性ディスペシアと内蔵知覚過敏.	富永 和作	消化器内科
大阪府内科医会会誌. 16:46-52 (2007年4月)	不安障害、気分障害の連携上の問題点.	富永 和作	消化器内科
消化器内視鏡 20: 205-209 (2008年2月)	低用量アスピリン関連小腸病変の診断と治療	渡辺 俊雄	消化器内科
日本臨床 65(5):946-950 (2007年5月)	GERDにおける消化器外症状の種類と頻度	荒川 哲男	消化器内科
医学と薬学 58(5):628-630 (2007年11月)	胃食道逆流症と性差	荒川 哲男	消化器内科
消化器科. 45(5): 486-491 (2007年11月)	カプセル内視鏡による小腸疾患の検査手順.	荒川 哲男	消化器内科
消化器科 45巻6号 Page584-590 (2007年12月)	ダブルバルーン小腸内視鏡による診断・治療成績からみた経口的、経肛門的挿入法選択の工夫	亀田 夏彦	消化器内科
日本消化器病学会雑誌 104巻4号 Page561-567 (2007年4月)	回腸静脈瘤破裂を呈したアルコール性肝硬変の1例	荒川 哲男	消化器内科
治療学 41:629-632 (2007年6月)	診断および治療に難渋した慢性下痢の1症例	押谷 伸英	消化器内科
Therapeutic Research 28: 609-610 (2007年4月)	疲労ストレスが胃排出機能に及ぼす影響 Symposium: 第9回GAS研究会	富永 和作	消化器内科
大阪府内科医会会誌. 16:46-52 (2007年4月)	不安障害、気分障害の連携上の問題点.	富永 和作	消化器内科
Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol.;294(2):R311-20. (2008年2月)	Attenuation of acute and chronic liver injury in rats by iron-deficient diet.	河田 則文	肝胆脾内科
J Med Virol. ;79(11):1664-70. (2007年11月)	Mutational patterns of hepatitis B virus genome and clinical outcomes after emergence of drug-resistant variants during lamivudine therapy: analyses of the polymerase gene and full-length sequences.	榎本 大	肝胆脾内科
Arch Histol Cytol. Jul;70(2):95-106. (2007年7月)	Characterization of vitamin A-storing cells in mouse fibrous kidneys using Cygb/STAP as a marker of activated stellate cells.	河田 則文	肝胆脾内科
J Gastroenterol Hepatol. ;22 Suppl 1:S85-6.. (2007年6月)	Role of oxidative stress and Kupffer cells in hepatic fibrosis.	河田 則文	肝胆脾内科
Mol Med. May-Jun;13(5-6):240-5. (2007年5月)	Expression of connective tissue growth factor in the human liver with idiopathic portal hypertension.	森川 浩安	肝胆脾内科
Ann Nucl Med. Jun;21(4):223-8. (2007年6月)	A case of sclerosing cholangitis with autoimmune pancreatitis evaluated by FDG-PET.	河田 則文	肝胆脾内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Bio(1881-9354)5巻2号 Page40-43 (2008年3月)	肝疾患と門脈圧亢進症	河田 則文	肝胆膵内科
消化器科(0289-8756)45巻5号 Page525-530 (2007年11月)	ステロイド抵抗性自己免疫性肝疾患の特徴と対策 アザチオプリン代謝酵素多型を含めて	田守 昭博	肝胆膵内科
Journal of Microwave Surgery(0917-7728)25巻Page105-108 (2007年9月)	原発性肝癌 腹腔鏡下に人工腹水を作製し、経皮的超音波誘導下ラジオ波凝固術を施行した肝細胞癌の1例	小林 佐和子	肝胆膵内科
Journal of Microwave Surgery(0917-7728)25巻Page89-91 (2007年9月)	原発性肝癌 肝細胞癌における熱凝固療法の適応と成績	坂口 浩樹	肝胆膵内科
整形外科看護(1342-4718)13巻1号 Page60-64 (2008年1月)	なにを見る?どうする? 整形外科患者の基礎疾患 肝炎・肝硬変	森川 浩安	肝胆膵内科
臨床消化器内科(0911-601X)22巻11号 Page1473-1477 (2007年9月)	NASHの成因と病態 NASH、酸化ストレスと肝線維化	藤井 英樹	肝胆膵内科
診断と治療(0370-999X)96巻3号 Page541-546 (2008年3月)	肝炎の進行と線維化マーカー	森川 浩安	肝胆膵内科
Microvasc Res. 73: 29-34, 2007 (2007年4月)	Neutrophil-activating activity and platelet-activating factor synthesis in cytokine-stimulated endothelial cells: reduced activity in growth-arrested cells.	新宅 治夫	小児科
J Hum Genet. 52: 349-54, 2007 (2007年4月)	Molecular and clinical analyses of Japanese patients with carbamoylphosphate synthetase 1 (CPS1) deficiency.	新宅 治夫	小児科
Mol Genet Metab 90: 30-36, 2007 (2007年4月)	Novel diagnostic approach to citrin deficiency: Analysis of citrin protein in lymphocytes.	岡野 善行	小児科
Mol Genet Metab 92: 308-314, 2007 (2007年8月)	Effects of tetrahydrobiopterin and phenylalanine on in vivo human phenylalanine hydroxylase by phenylalanine breath test.	岡野 善行	小児科
The American journal of psychiatry (2008年2月)	Symptom structure in Japanese patients with obsessive-compulsive disorder.	松永 寿人	神経精神科
Psychiatry and clinical neurosciences (2007年4月)	Secondary obsessive-compulsive disorder related to diaschisis after pontine infarction, successfully treated with paroxetine.	松井 徳造	神経精神科
Seishin Shinkeigaku Zasshi (2007年12月)	Construction of a therapeutic network for eating disorders.	切池 信夫	神経精神科
Seishin Shinkeigaku Zasshi (2007年12月)	Treatment of conditions preceding eating disorders, with social anxiety disorders as an example.	永田 利彦	神経精神科
Seishin Shinkeigaku Zasshi (2008年3月)	A review of the researches focusing on the heterogeneity of obsessive-compulsive disorder and its potential subtypes.	松永 寿人	神経精神科
Journal of Dermatology 34(5):336-339 (2007年05月)	Dermatofibrosarcoma protuberans with atrophic appearance at early stage of the tumor.	石井 正光	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology 21(10):1413-1414 (2007年11月)	Anaphylaxis caused by bonitos.	石井 正光	皮膚科
Osaka City Medical Journal 53(2):73-85 (2007年12月)	Effect of normal human erythrocytes on blood rheology in microcirculation.	石井 正光	皮膚科
Journal of Dermatology 35(2):115-119 (2008年02月)	Case of cheilitis granulomatosa associated with apical periodontitis.	石井 正光	皮膚科
Skin Cancer 22(3):268-272 (2008年03月)	Folliculotropic Mycosis Fungoidesの1例	石井 正光	皮膚科
AJR Am J Roentgenol (2007年4月)	CT-guided percutaneous radiofrequency ablation of spleen: a preliminary study.	松岡 利幸	放射線科
Int J Clin Oncol (2007年4月)	CT-guided radiofrequency ablation for lung cancer.	松岡 利幸	放射線科
Interventional Radiology (2007年7月)	【IVR認定看護師育成に向けて】IVRに必要な基本解剖	中村 健治	放射線科
外科治療 (2007年7月)	【外科医が知っておくべきIVRのすべて】肝胆脾領域におけるIVRの適応と限界 門脈圧亢進症に対するIVR	中村 健治	放射線科
AJNR Am J Neuroradiol (2007年8月)	Expansile organized maxillary sinus hematoma: MR and CT findings and review of literature.	井上 佑一	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol (2007年11月)	Systemic Artery to Pulmonary Artery Fistula Associated with Mitral Regurgitation: Successful Treatment with Endovascular Embolization.	中村 健治	放射線科
Clin Nucl Med (2007年11月)	Usefulness of Tc-99m PMT Hepatobiliary Scintigraphy in Preoperative Evaluation of Flow of Biliary Drainage in a Patient With a Biliary-Gastric Fistula.	井上 佑一	放射線科
J Vasc Interv Radiol (2007年12月)	Air Embolism during Needle Placement for CT-guided Radiofrequency Ablation of an Unresectable Metastatic Lung Lesion.	松岡 利幸	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol (2008年2月)	Frequency and Risk Factors of Various Complications After Computed Tomography-Guided Radiofrequency Ablation of Lung Tumors.	松岡 利幸	放射線科
Br J Radiol (2008年3月)	A case of synovial sarcoma in the perivertebral space of the neck: clinical presentation, radiological findings and histopathological description.	井上 佑一	放射線科
Oncology Reports 17(4) 887-893 (2007年4月)	The pan-erbB tyrosine kinase inhibitor CI-1033 inhibits human esophageal cancer cells in vitro and in vivo.	平川 弘聖	消化器外科
Oncology Reports 17(5)997-1003 (2007年5月)	Prognostic significance of lymphovascular invasion diagnosed by lymphatic endothelium immunostaining in breast cancer patients.	平川 弘聖	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncology Reports 17(6)1327-1331 (2007年6月)	Predictive value of vascular endothelial growth factor-C expression for local recurrence of rectal carcinoma.	平川 弘聖	消化器外科
Journal of the Pancreas 8(4 Suppl)479-487 (2007年7月)	Action of antiproteases on pancreatic cancer cells.	平川 弘聖	消化器外科
Digestive Diseases and Sciences 52(8)1946-1953 (2007年8月)	A Synergistic Antitumor Effect of Interleukin-2 Addition with CD80 Immunogene Therapy for Peritoneal Metastasis of Gastric Carcinoma.	平川 弘聖	消化器外科
British Journal of Cancer 97; 550-556 (2007年8月)	Prognostic impact of PCR-based identification of isolated tumour cells in the peritoneal lavage fluid of gastric cancer patients who underwent a curative R0 resection.	平川 弘聖	消化器外科
European Journal of Cancer 43; 2612-2620 (2007年11月)	A novel angiogenesis inhibitor, Ki23057, is useful for preventing the progression of colon cancer and the spreading of cancer cells to the liver.	平川 弘聖	消化器外科
Anticancer Research 27; 4071-4076 (2007年11月)	ERas oncogene expression and epigenetic regulation by histone acetylation in human cancer cells.	平川 弘聖	消化器外科
Journal of Experimental & Clinical Cancer Research 26(4) 459-466 (2007年12月)	Comparison of clinicopathological characteristics of curatively resected pancreatic head and body / tail ductal cancers.	平川 弘聖	消化器外科
Gastroenterological Endoscopy 49(4)1130-1135 (2007年4月)	急性虫垂炎を契機に発見された腸間膜静脈硬化症の1例	平川 弘聖	消化器外科
日本内視鏡外科学会雑誌 12(2)177-181 (2007年4月)	腹腔鏡併用小開腹手術による潰瘍性大腸炎緊張手術	平川 弘聖	消化器外科
標準外科学, 777-784, (株)医学書院 (2007年5月)	老人外科	平川 弘聖	消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 68(5); 1123-1127 (2007年5月)	腹腔鏡下に摘出した食道胃接合部の馬蹄型平滑筋腫の1例	平川 弘聖	消化器外科
日本腹部救急医学会雑誌 27(4)651-653 (2007年5月)	保存的に治療したSegmental arterial mediolysis(SAM)による腹腔内出血の1例	平川 弘聖	消化器外科
臨床外科 62(6)867-870 (2007年6月)	右胃大網動脈を用いた冠状動脈バイパス術後に発症した胆石症に腹鏡下胆囊摘出術を施行した1例	平川 弘聖	消化器外科
日本腹部救急医学会雑誌 27(6)839-843 (2007年6月)	QOLからみた切除不能大腸悪性狭窄に対するステント留置術の有用性	平川 弘聖	消化器外科
手術 61(8)1179-1182 (2007年7月)	咽喉食管後の再建胃管壊死および皮膚瘻に対してDUMONチューブが有効であった1例	平川 弘聖	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術 61(8)1079-1087 (2007年7月)	自動縫合器(リニアステイプラーを中心)に	平川 弘聖	消化器外科
コンセンサス癌治療 6(3)144-146 (2007年8月)	【コンセンサス腫瘍マーカー】肺癌	平川 弘聖	消化器外科
臨床外科 62(11)189-198 (2007年11月)	胃癌の治療に関する最新のデータ	平川 弘聖	消化器外科
オンコジークリニカルガイド「消化器癌化学療法 食道・胃・大腸」久保田哲朗、大村健二編、(株)南山堂、東京、52-56、(2007年11月)	消化器癌化学療法のKey Drugs-⑥ シスプラチン(CDDP)	平川 弘聖	消化器外科
癌と化学療法 34(11)1833-1836 (2007年11月)	高齢者(70歳以上)進行再発大中癌症例に対するm-FOLFOX6療法の安全性についての検討	平川 弘聖	消化器外科
手術 61(13)1909-1912 (2007年12月)	腹腔鏡下胃切除術における術野展開の工夫	平川 弘聖	消化器外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 55:403-408, (2007年10月)	Long-term survival and functional recovery after isolated coronary artery bypass grafting in patients with severe left ventricular dysfunction.	末廣 茂文	肝胆脾外科
J Card Surg 22:314-319, (2007年7月)	Impact of valve prosthesis-patient mismatch on long-term survival and left ventricular mass regression after aortic valve replacement for aortic stenosis.	末廣 茂文	肝胆脾外科
Hepatogastroenterology.54(75),830-833. (2007年4月)	Risk factors for massive blood loss during liver resection for hepatocellular carcinoma in patients with cirrhosis.	久保 正二	肝胆脾外科
Arterioscler Thromb Vasc Biol 27:1326-1333, (2007年6月)	Synchrotron radiation coronary microangiography for morphometric and physiological evaluation of myocardial neovascularization induced by endothelial progenitor cell transplantation.	末廣 茂文	肝胆脾外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 55:91-97, (2007年5月)	Long-term experience with the Sorin Bicarbon and Edwards Mira mechanical valve prostheses in the mitral position.	末廣 茂文	肝胆脾外科
Free Radical Research.41(4),489-497. (2007年4月)	S-allyl-cysteine prevents CCl4-induced acute liver injury in rats.	高台 真太郎	肝胆脾外科
World Journal of Surgery.32(4),632-638. (2008年1月)	Second hepatic resection for recurrent hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C.	久保 正二	肝胆脾外科
Free Radical Research.42(3),261-271. (2008年3月)	Supplementation of alpha-tocopherol improves cardiovascular risk factors via the insulin signalling pathway and reduction of mitochondrial reactive oxygen species in type II diabetic rats.	竹村 茂一	肝胆脾外科
Hepatology Research.38(1),70-78. (2008年1月)	Overexpression of CYP3A aggravates endotoxin-induced liver injury in hypophysectomized female rats.	竹村 茂一	肝胆脾外科
Annals of Surgical Oncology.15(2),583-587. (2008年2月)	Serum cytokeratin 19 fragment (CYFRA21-1) as a prognostic factor in intrahepatic cholangiocarcinoma.	上西 崇弘	肝胆脾外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術. 61(7),951-956. (2007年6月)	食道亜全摘術における神経温存手術手技(鏡視下)	大杉 治司	肝胆脾外科
手術. 61(9),1219-1225. (2007年8月)	胸腔鏡下食道切除・リンパ節郭清	大杉 治司	肝胆脾外科
Journal of Japan Surgical Society. 109(1),26-30. (2008年1月)	Thoracoscopic radical esophagectomy for esophageal cancer.	李 栄柱	肝胆脾外科
Surgery.70(1),13-18. (2008年1月)	Reconstruction after distal esophagectomy.	李 栄柱	肝胆脾外科
Japanese Journal of Cancer Clinics.54(1),39-44 (2008年2月)	Thoracoscopic Esophagectomy for the Aged Patients with Esophageal Cancer.	岸田 哲	肝胆脾外科
Surgery Frontier.15(1),26-31. (2008年3月)	Evaluation of surgical invasiveness and perioperative care in patients with esophageal cancer.	李 栄柱	肝胆脾外科
日本呼吸器外科学会雑誌 21(4), 538-543, (2007年5月)	胸腺腫手術症例の検討	西山 典利	呼吸器外科
Lung Cancer 58, 369-375, (2007年12月)	Serum Sialyl Lewisx and cytokeratin 19 fragment as predictive factors for recurrence in patients with stage I non-small lung cancer.	西山 典利	呼吸器外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg55(11), 455-460, (2007年11月)	Pulmonary metastasis from colorectal carcinoma with hepatic metastasis.	西山 典利	呼吸器外科
Biofactors30(2):117-28, (2007年12月)	Local and systemic impacts of pleural oxygen exposure in thoracotomy.	西山 典利	呼吸器外科
Ann Thorac Surgery84, 1810-7, (2007年12月)	Long-term outcome of surgical treatment for non-small cell lung cancer with comorbid liver cirrhosis.	岩田 隆	呼吸器外科
Intrtact CardioVasc Thorac Surg6, 720-730, 1 (2007年12月)	Factors predicting early postoperative liver cirrhosis-related complications after lung cancer surgery in patients with liver cirrhosis.	岩田 隆	呼吸器外科
Americal Journal of Neuroradiology (2007年6月)	Morphologic evaluation of the caudal end of the inferior petrosal sinus using 3D rotational venography.	三橋 豊	脳神経外科
Neurologia Medico-Chirurgica (2007年4月)	Posterior C1-2 Fixation With Cancellous Screw and Rod System for Retro-odontoid Pseudotumor Associated With Chronic Atlantoaxial Subluxation.	高見 俊宏	脳神経外科
J Biomed Mater Res B Appl Biomater.(in press) (2008年3月)	Wear particle analysis of highly crosslinked polyethylene isolated from a failed total hip arthroplasty.	高岡 邦夫	整形外科
J Bone Miner Metab. 26:152-8, (2008年2月)	Expression profiles of phosphodiesterase 4D splicing variants in osteoblastic cells.	高岡 邦夫	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Bone Miner Metab.26:115-22, (2008年2月)	Present status of and future direction for articular cartilage repair.	高岡 邦夫	整形外科
J Orthop Res.26:91-5, (2008年1月)	Increased hepatic cytochrome P4503A activity decreases the risk of developing steroid-induced osteonecrosis in a rabbit model.	高岡 邦夫	整形外科
J Orthop Res. 25:1415-24, (2007年11月)	Generation of tendon-to-bone interface "enthesis" with use of recombinant BMP-2 in a rabbit model.	高岡 邦夫	整形外科
Rheumatology (Oxford). 46:1652-6, (2007年11月)	Serum keratan sulfate is a promising marker of early articular cartilage breakdown.	高岡 邦夫	整形外科
Bone. 41:543-8, (2007年10月)	Prostaglandin E2 EP4 agonist (ONO-4819) accelerates BMP-induced osteoblastic differentiation.	高岡 邦夫	整形外科
Spine.32:2294-9, (2007年10月)	Enhancing effects of a prostaglandin EP4 receptor agonist on recombinant human bone morphogenetic protein-2 mediated spine fusion in a rabbit model.	高岡 邦夫	整形外科
Cell. 130:811-23, (2007年9月)	Estrogen prevents bone loss via estrogen receptor alpha and induction of Fas ligand in osteoclasts.	高岡 邦夫	整形外科
Clin Orthop Relat Res.461:162-9, (2007年8月)	Reconstruction of bone defects using rhBMP-2-coated devitalized bone.	高岡 邦夫	整形外科
J Orthop Res. 25:1042-51 (2007年8月)	Repair of bone defects in revision hip arthroplasty by implantation of a new bone-inducing material comprised of recombinant human BMP-2, Beta-TCP powder, and a biodegradable polymer: an experimental study in dogs.	高岡 邦夫	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg. 127:331-3, (2007年7月)	Calcaneal apophyseal avulsion fracture.	高岡 邦夫	整形外科
J Cell Sci. 120:1350-7, (2007年4月)	Comparative roles of Twist-1 and Id1 in transcriptional regulation by BMP signaling.	高岡 邦夫	整形外科
Plast Reconstr Surg.119:1431-9, (2007年4月)	Regenerative repair of long intercalated rib defects using porous cylinders of beta-tricalcium phosphate: an experimental study in a canine model.	高岡 邦夫	整形外科
大阪透析研究会会誌 26 (1)73-77 (2008年3月)	透析液清浄化の現況 —大阪府透析液実態調査結果から—	武本 佳昭	泌尿器科
International Journal of Molecular Medicine 19(5)783-790 (2007年5月)	A study of innate immunity in patients with end-stage renal disease: special reference to toll-like receptor-2 and -4 expression in peripheral blood monocytes of hemodialysis patients.	武本 佳昭	泌尿器科
Urologia Internationalis 78(4)345-350 (2007年5月)	Palliative treatment of bone metastases in hormone-refractory prostate cancer: effects of pamidronate on the carboxyterminal telopeptide of type-I collagen level in patients with increasing prostate-specific antigen levels.	川嶋 秀紀	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncology reports 17(6)1469-1474 (2007年6月)	Significance of target cell infection and natural killer cells in the anti-tumor effects of bacillus Calmette-Guerin in murine bladder cancer.	仲谷 達也	泌尿器科
Oncology reports 18(1)99-104 (2007年7月)	Overexpression of cysteinyl LT1 receptor in prostate cancer and CysLT1R antagonist inhibits prostate cancer cell growth through apoptosis.	吉村 力勇	泌尿器科
Nephrology 12(4)413-417 (2007年8月)	The prevalence of metabolic syndrome in Japanese renal transplant recipients.	長沼 俊秀	泌尿器科
Ann Epidemiol. 18(1):78-84. (2008年1月)	Ambient formaldehyde levels and allergic disorders among Japanese pregnant women: baseline data from the Osaka maternal and child health study.	石河 修	産婦人科
Int J Oncol. 31(6):1333-1338. (2007年12月)	Estradiol-17beta regulates vascular endothelial growth factor and Bcl-2 expression in HHUA cells.	本田 謙一	産婦人科
Int J Mol Med. 20(3):287-292. (2007年9月)	Dandelion T-1 extract up-regulates reproductive hormone receptor expression in mice.	本田 謙一	産婦人科
Int J Oncol. 31(3):531-536. (2007年9月)	Vascular endothelial growth factor, matrix metalloproteinases, and cyclooxygenase-2 influence prognosis of uterine cervical cancer in young women.	角 俊幸	産婦人科
Oncol Rep. 18(2):361-7. (2007年8月)	Expression of glucose transporters in epithelial ovarian carcinoma: correlation with clinical characteristics and tumor angiogenesis.	松本 佳也	産婦人科
Fertil Steril. 88(4):1135-1142. (2007年10月)	In vitro effect of dehydroepiandrosterone sulfate on steroid receptors, aromatase, cyclooxygenase-2 expression, and steroid hormone production in preovulatory human granulosa cells.	本田 謙一	産婦人科
産婦人科の進歩 59巻4号 Page293-294 (2007年11月)	当科における子宮体癌に対する高用量黄体ホルモンによる妊娠性温存療法	本田 謙一	産婦人科
産科と婦人科 75巻1号 Page100-108 (2008年1月)	過活動膀胱における過活動膀胱症状質問票(OABSS:Overactive Bladder Symptom Score)を用いた多施設研究 コハク酸ソリフェナシンの使用経験	角 俊幸	産婦人科
周産期学シンポジウム 25号 Page23-26 (2007年9月)	周産期の輸血療法をめぐって 産科・母体 周産期大量出血における当科での対応に関する検討	橘 大介	産婦人科
産婦人科の進歩 59巻2号 Page164-165 (2007年5月)	双顎双角子宮の各副角に妊娠した二絨毛膜二羊膜性双胎の2症例	橘 大介	産婦人科
産婦人科の進歩 59巻2号 Page124-126 (2007年5月)	当科における若年子宮頸癌の現況	角 俊幸	産婦人科
産科と婦人科 74巻4号 Page493-496 (2007年4月)	Klippel-Trenaunay-Weber症候群合併妊娠の1例	橘 大介	産婦人科
臨床眼科 61(6)1063-1068 (2007年6月)	仮面症候群を呈した中枢神経系悪性リンパ腫の1例	白木 邦彦	眼科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科 61(8)1525-1528 (2007年10月)	先天乳頭上膜の収縮により黄斑円孔をきたした1例	河野 剛也	眼科
臨床眼科 62(2)113-121 (2008年2月)	眼底自発蛍光の臨床応用	白木 邦彦	眼科
耳鼻臨床、100(7); 509-515, 2007 (2007年7月)	論説 先天性外耳道狭窄症は危険な病態である—診断と対応の仕方—	山根 英雄	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会会報 58: 205, (2007年11月)	頭頸部癌症例における重複癌—当科の現況—	井口 広義	耳鼻咽喉科
Eur Arch Otorhinolaryngol 264 (Supple 1): S125, (2007年6月)	Multiple primary malignancies in patients with head and neck cancer in our department.	井口 広義	耳鼻咽喉科
南大阪病院医学雑誌 55 (2・3)79-85 (2008年3月)	耳鳴に対するtinnitus retraining therapy (TRT)	坂下 哲史	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 127: 447-448, (2007年4月)	Transmucosal coil migration after endovascular management for carotid artery pseudoaneurysm: A late complication.	井口 広義	耳鼻咽喉科
Anesthesia and Analgesia 104 (5) 1136-1144 (2007年5月)	The effects of general anesthetics on P2X7 and P2Y receptors in a rat microglial cell line.	森 隆	麻酔科
Masui 56 (10) 1155-1160 (2007年10月)	Efficacy of dexmedetomidine for controlling delirium in intensive care unit patients.	小田 裕	麻酔科
Anesthesia and Analgesia 105 (5) 1272-1277 (2007年11月)	The effect of dexmedetomidine on electrocorticography in patients with temporal lobe epilepsy under sevoflurane anesthesia.	小田 裕	麻酔科
British Journal of Anaesthesia 99 (6) 858-863 (2007年12月)	Differential electroencephalographic response to tracheal intubation between young and elderly during isoflurane and sevoflurane nitrous oxide anaesthesia.	小田 裕	麻酔科
American Journal of Hematology 2007;82(10):873-880 (2007年10月)	Prospective phase II trial to evaluate the complications and kinetics of chimerism induction following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with fludarabine and busulfan.	日野 雅之	血液内科
Bone Marrow Transplantation 2007;40(3):251-259 (2007年8月)	Prophylactic fresh frozen plasma may prevent development of hepatic VOD after stem cell transplantation via ADAMTS13-mediated restoration of von Willebrand factor plasma level.	日野 雅之	血液内科
Ann of Neurology,63: 377-387 (2008年2月)	A new amyloid $\beta$ variant favoring oligomerization in Alzheimer-type dementia.	嶋田裕之	老年科・神経内科
J Bone Miner Metab 26:265-270, (2008年2月)	Reference intervals of serum tartrate-resistant acid phosphatase type 5b activity measured with a novel assay in Japanese subjects.	三木隆己	老年科・神経内科
Journal of Dermatology. 35(1):25-8, (2008年1月)	Giant epidermal cyst extending from sole to dorsum of the foot by penetrating the interosseous muscles.	原田 輝一	形成外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Dermatology. 35(2):86-92, (2008年2月)	Experimental pseudocyst model resembling human ganglion.	原田 輝一	形成外科
日本形成外科学会会誌 27巻10号 Page706-709 (2007年10月)	歯性感染より生じた咀嚼筋間隙膿瘍の1例	原田 輝一	形成外科
日本マイクロサージャリー 学会会誌 20巻2号 Page139-146 (2007年6月)	大腿筋膜張筋皮弁を用いた腫瘍切除後腹壁全層欠損の再建 われわれの行っている工夫	原田 輝一	形成外科
Interact Cardio Vasc Thorac Surg 6:354-357, ( 2007年6月)	Early surgery for hospital-acquired and community-acquired active infective endocarditis.	佐々木 康之	心臓血管外科
Osaka City Med. J 53:9-16, ( 2007年6月)	Pre-ischemic administration of Landiolol prevents ischemia-reperfusion injury in the rat heart.	平居 秀和	心臓血管外科
Free Radical research 41:757-769, ( 2007年7月)	Landiolol has cardioprotective effects against reperfusion injury in the rat heart via the PKC ε signaling pathway.	平居 秀和	心臓血管外科
Circ J 71:1996-1998, ( 2007年12月)	Rupture of aneurysm circumflex coronary artery into the left atrium after ligation of its arteriovenous fistula.	佐々木 康之	心臓血管外科
International Journal of Clinical Oncology (2007年4月)	Successful treatment of multiple hepatocellular carcinoma with tumor thrombi in the major portal branches by intraarterial 5-fluorouracil perfusion chemotherapy combined with subcutaneous interferon-alpha and hepatectomy.	若狭 研一	病理部
Oncology Reports (2007年5月)	Prognostic significance of lymphovascular invasion diagnosed by lymphatic endothelium immunostaining in breast cancer patients.	若狭 研一	病理部
Radiology (2007年5月)	Hepatocellular carcinoma in patients with nonalcoholic fatty liver disease: helical CT and MR imaging findings with clinical-pathologic comparison.	若狭 研一	病理部
Journal Gastroenterology (2007年7月)	Complete remission of hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombus and lymph node metastases by arterial infusion of 5-fluorouracil and interferon-alpha combination therapy following hepatic resection.	若狭 研一	病理部
Lung Cancer (2007年12月)	Serum sialyl lewis and cytokeratin 19 fragment as predictive factors for recurrence in patients with stage I non-small cell lung cancer.	若狭 研一	病理部
International Journal of Molecular Medicine (2007年4月)	Enhanced mast cell chymase expression in human idiopathic interstitial pneumonia.	大澤 政彦	病理部
Circulation Journal (2007年5月)	Elevated plasma levels of oxidized low-density lipoprotein relate to the presence of angiographically detected complex and thrombotic coronary artery lesion morphology in patients with unstable angina.	大澤 政彦	病理部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Heart (2007年12月)	Neopterin is associated with plaque inflammation and destabilisation in human coronary atherosclerotic lesions.	大澤 政彦	病理部
Osaka City Medical Journal (2007年12月)	Enhanced expression of angiotensin II type 1 receptor in usual interstitial pneumonia.	大澤 政彦	病理部
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis (2008年2月)	Small Coronary Calcium Deposits and Elevated Plasma Levels of Oxidized Low Density Lipoprotein are Characteristic of Acute Myocardial Infarction.	大澤 政彦	病理部
日本集中治療医学会雑誌、15、16~17、 (2008年1月)	外傷後の高ビリルビン血症	溝端 康光	救急部
日本臨床救急医学会雑誌、10、443~448、 (2007年8月)	心タンポナーデを呈した綠膿菌による心外膜炎の一例	溝端 康光	救急部
Clin Orthop Relat Res. (2007年4月)	Midterm results of revision total elbow arthroplasty in patients with rheumatoid arthritis.	小池 達也	リハビリテーション部
日医雑誌 (2007年 5月)	ヒッププロテクターの効用	小池 達也	リハビリテーション部
Clinical Calcium (2007年 7月)	転倒と骨折のリスク	小池 達也	リハビリテーション部
Jpn J Rehabil Med (2007年 9月)	高齢者の転倒・骨折の予防	小池 達也	リハビリテーション部
日本臨床 (2007年 9月)	高齢者の骨折予防一転倒予防とヒッププロテクター	小池 達也	リハビリテーション部
Lab Invest. (2008年 1月)	Wnt/beta-catenin signaling stimulates matrix catabolic genes and activity in articular chondrocytes: its possible role in joint degeneration.	小池 達也	リハビリテーション部
日本公衆衛生雑誌(0546-1766)55巻2号 Page75-82 (2008年2月)	大阪市におけるC型肝炎ウイルス検診と肝炎フォローアップ事業の検討	田守 昭博	輸血部
Tissue Antigens. May;71(5):458-63. Epub (2008年2月)	PTPRC (CD45) variation and disease association studied using single nucleotide polymorphism tagging.	田守 昭博	輸血部
J Med Virol. 79:1664-70. (2007年11月)	Mutational patterns of hepatitis B virus genome and clinical outcomes after emergence of drug-resistant variants during lamivudine therapy: analyses of the polymerase gene and full-length sequences.	田守 昭博	輸血部
Hepatol Res. 37 Suppl 2:S303-7. (2007年9月)	Potential role of vitamin K(2) as a chemopreventive agent against hepatocellular carcinoma.	田守 昭博	輸血部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門	
Mol Med. 13:240-5. (2007年5月)	Expression of connective tissue growth factor in the human liver with idiopathic portal hypertension.	田守 昭博	輸血部	合計239

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 原 充弘
管理担当者氏名	庶務課長 安積 孝夫

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		経営企画課 薬剤部	診療録・エックス線写真・看護記録等については、医療情報部で、処方せんについては、薬剤部で保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事運営課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課 薬剤部	
確規保則の第 状況の第 2条の 3条及 び第 11条の 各号に 掲げる 体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	庶務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	庶務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	庶務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	庶務課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	庶務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	庶務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	庶務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	庶務課	

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	庶務課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	庶務課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	庶務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	庶務課	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	臨床工学部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

### 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

#### ○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲 覧 責 任 者 氏 名	病院長 原 充弘
閲 覧 担 当 者 氏 名	庶務課長 安積 孝夫
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

#### ○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲覧者別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

#### ○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	80.2%	算定期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数		19,447人
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者数		17,886人
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数		456人
	D : 初診の患者の数		29,277人

(注) 1. 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2. A、B、C、Dはそれぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

### 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名) • 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) • 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 • 無

#### ・ 所属職員：専任（6）名 兼任（7）名

医療に係る安全管理を行う部門として、副院長を室長・統括安全管理者とする安全管理対策室を設け、専任安全管理者2名（看護師、薬剤師各1名）を中心として、各部署から選出された安全管理者（リスクマネージャー、79名）とともに、様々な角度から調査・分析・検討を行い、部門横断的な安全管理対策を実施している。

平成18年4月の地方独立行政法人移行に伴い、安全管理対策室に専任の感染・褥瘡管理者も加え、また、安全管理対策室長を補佐するため、室長代理（2名）及び顧問（4名）を任命し体制強化を図った。

#### ・ 活動の主な内容

- 安全管理対策の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、安全管理対策協議会等の会議を定期的に開催し、医療安全対策の推進を図る。
- 医療安全対策に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全に対する意識の高揚を図る。
- 安全管理対策室に送信されたインシデントレポートについて、週1回、リスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。
- 様々な課題について、安全管理対策室内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。

④ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	有 • 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 • 無

#### ・ 指針の主な内容

平成16年12月に改正した「大阪市立大学附属病院医療安全管理規程」において、医療安全管理に関する体制確保及び推進を図るために必要な事項を定めるとともに、

「大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理に関する指針」において、患者の安全を確保し、高度で良質な医療を提供するために、本院における医療安全管理に関して、安全管理上の体制の確保及び推進を図るために準拠すべき基本的事項を以下のとおり定めた。

- 用語の定義・公表基準
- 組織及び体制
- 院内報告制度
- 安全管理に関する教育・研修
- 医療事故発生時の対応
- 医療事故の調査と事故防止対策
- 医療安全相談窓口

さらに、平成18年4月の改定で、独立行政法人化に伴う規程整備に加え、安全管理対策室の拡充及び医療事故審議会の設置、オンラインレポートシステムの更新について定め、平成19年3月には主に公表基準について改定を行った。

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回(平成19年)
-------------------------	-------------

- ・ 安全管理対策協議会での活動の主な内容
  - 院内の安全管理対策の検討及び推進に関すること
  - 安全管理等の情報に関すること
  - 医療事故の調査、審議及び改善策の検討に関すること
  - その他、安全管理に関すること

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年19回(平成19年)
--------------------------	-------------

- ・ 研修の主な内容
  - 全教職員を対象とした講演会の実施。 (1回)
  - 部署別事例研修の開催 (1回)
  - 新規採用の医師・看護師及び研修医に対し、安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な概念の研修会を開催。  
(新規採用者研修：医師、看護師、技師等14回)
  - 医療従事者対象の診療用機器取扱いに関する講習会の開催 (1回)
  - 厚生労働省推薦教材D V D研修 (1回)
  - 全従業者を対象としたA E D講習会の開催 (1回)

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況
---

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ) ・  無 )
- ・ 他の改善のための方策の主な内容  
病院各部門は、医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデント及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。  
報告されたレポートについては、週1回、リスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門にて詳細な調査や報告書の提出を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。  
また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。  
一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し喚起している。

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :            「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策規程」において、感染症の予防及び感染症の患者に対する必要な措置を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策指針」で、感染対策の推進を行うための基本的事項を次のとおり定めている。         </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内の感染に関する予防と処置に関すること</li> <li>・ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正</li> <li>・ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る。実施後、検証を行い見直しを行う。</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 43 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規採用者に対する研修</li> <li>・ 全教職員を対象とした講演会の実施</li> <li>・ リンクナース・外来ボランティア・ナースエイド・清掃/洗濯委託業者を対象とした研修</li> <li>・ 感染対策担当者研修</li> <li>・ D V D 研修</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 : ( (有)・無 )</li> </ul> <p>・ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症すべて及び院内感染をひきおこす可能性のある感染症については報告を行う。届出が必要な感染症の場合は用紙に記入し、保健所（知事・大阪市長）及び院内感染防止対策委員長あて提出する。専任感染管理者は必要な部門（病院長・院内感染防止対策委員会等）へ報告する。</p> <p>・ 院内感染防止対策委員会に I C T を置き、I C T で次のとおりの任務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染情報の解析と管理</li> <li>・ 院内感染症のサーベイランス</li> <li>・ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計</li> <li>・ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告</li> <li>・ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導</li> <li>・ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導</li> <li>・ 従業者への感染防止対策に関する教育と啓蒙</li> <li>・ 感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂</li> <li>・ 職業感染防止対策の実施</li> <li>・ ファシリティー・マネジメント（施設管理）への関与</li> </ul>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> 有 )・( <input type="radio"/> 無 )
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 11回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容 : ①新規採用者研修（毎月1日実施：9回実施）            ②医薬品安全管理に関する研修会（全職員対象に1回実施）            ③臨床研修医、卒後研修（年1回実施）</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成 ( ( <input checked="" type="radio"/> 有 )・( <input type="radio"/> 無 ) )</li> <li>業務の主な内容 : ①内用・外用薬処方の方法、取扱い            ②注射薬の取扱い            ③医薬品管理（麻薬・覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬、筋弛緩薬注射剤、特定生 物由来製品、特定抗菌薬、定数配置しているハイリスク薬など）            ④安全性情報（院内副作用報告体制、緊急安全性情報の連絡体制）            ⑤薬品採用・購入（薬事委員会規程）</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備 ( ( <input checked="" type="radio"/> 有 )・( <input type="radio"/> 無 ) )</li> <li>その他の改善の方策の主な内容 :           <ul style="list-style-type: none"> <li>①副作用報告を電子カルテ端末から入力可能とした。</li> <li>②医薬品安全使用に関する情報は文書で通知するとともに電子カルテ端末の掲示板にも掲載して周知の徹底を図った。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>※安全管理対策室に薬剤部副部長が医薬品安全管理者として配属されており、院内で発生した医薬品使用に係わるインシデント情報を速やかに入手し、対応している。</p>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <p>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置などについては定期的研修をしており、新規導入機器についても導入時に研修を実施している。</p>	
<p>③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</li> <li>・ 保守点検の主な内容 :</li> </ul> <p>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、その他（シリジポンプ・輸液ポンプなど）について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づき、日常点検（始業時点検、使用中点検、使用後点検）並びに定期点検を実施し、その結果を点検報告書に記載後、保管している。</p>	
<p>④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業者より改修情報を入手後、すみやかに院内医療機器安全性情報を発信し、業者と共に院内該当機器の改修作業を実施した。</li> <li>2. 業者より回収情報を入手後、すみやかに院内医療機器安全性情報を発信し、院内該当機器の回収作業を実施した。</li> <li>3. 患者使用中に、人工呼吸器が突然停止した事例について、製造業者に原因究明調査依頼、院内同型機器の使用停止などを周知した。原因究明後、人工呼吸器取扱者に対し安全使用に関する講習会を開催し、安全確認後使用再開をした。また、厚生労働省に対し医療機器安全性情報報告書を提出した。</li> <li>4. 病室からナースステーションへ生体情報の通信異常が発生時、業者とともにアンテナケーブル仮設工事を実施した。</li> <li>5. 他病院にて患者使用時にバッテリー駆動のシリジポンプが停止した情報を入手後、院内すべての輸液ポンプ、シリジポンプの充電確認作業と充電方法を文書・口頭による説明を実施した。</li> </ol>	